

## 第26回河口湖・西湖鯉釣り大会結果

平成24年10月5日(金)正午より7日(日)正午において第26回河口湖・西湖鯉釣り大会が開催された。淡水研からは常連8名がエントリーし、7名が参加した。各参加会員のポイントと釣果は次の通り。(丸付き数字は下の地図のポイントを示す)

- ⑦ 第一駐車場(西湖吐出し): 遠藤会員。ウキ釣りで挑戦するもフナ1匹のみ。
- ⑫⑬間 倉庫前: 福田・堀内・矢島会員。矢島会員は大会中70代後半を釣り上げキープしてあったが、カープサックがほころび逃げられてしまった。
- ⑫ 小曲(こまがり): 斎木・穂積会員。斎木会員は大会前80cm、大会中70台3本とアタリ回数は最多。穂積会員は大会中70弱1本。
- ⑬ 浅川ボート店前: 私(渡辺)は5日夜から参加。80台を上げることが出来たので検量に持ち込んだ。結果81.1cmで入賞には至らず。

参加会員全員が河口湖で釣座を構えた。大会時の河口湖の状態は雨が少なく減水して水温も高かった。そのためモジリも沖目に多く見られた。大会前週に斎木・矢島両会員とともに様子見がてら3人でサオを出したが矢島会員しか釣果が得られなかった。

大会時の傾向として、ここ河口湖では一番最初に釣れるコイが一番大きく、その後徐々に小さくなると言われているせいか大会時は早く来ても釣座の確保と撒き餌だけでシカケを入れない釣り人が多い。

○ 釣果のあった会員の共通点として、エサはボイリーで種類は各自異なるがその場その時の当たりエサを模索している。比較的遠投している。大会以外でも河口湖に釣行している。・・・など。もちろんダンゴでも釣れるが遠投には技術が必要なのでシンプルなユーロスタイルが浸透している。

大会結果は別表の通りで優勝は長野の堀川一浩氏で元野生研、現暁の会所属。三方湖で釣果を出している。



- : 第26回大会入賞者の入釣ポイント(10月【河口湖のコイ釣りポイント】(2007鯉釣りMagazineより抜粋))
- : 淡水研会員の入釣ポイント
- : 第25回大会入賞者の入釣ポイント(6月)

今回は残念ながら淡水研からの入賞者はなく、左の記念写真も心なしか元気がないように感じる。  
 今回の結果をよく分析研究して自愛の入賞につなぎたい。



第26回河口湖鯉釣り大会				
一般の部				
順位	氏名	所属会	記録	場所
優勝	堀川一浩	暁の会	97.6cm 11.1kg	林木屋
2位	友野雅之	友のよび会	94.7cm 10.42kg	第一
3位	前嶋照夫	一般	93.1cm 12.7kg	富士ヶ崎前
4位	土屋貴己	一般	92.2cm 10.36kg	西湖
5位	内藤祐介	Team-EURO	91.6cm 9.98kg	ロケット
6位	小口隆成	相模鯉会	90.8cm 10.1kg	大野下
7位	中山靖隆	ING-CARP	90.0cm 8.66kg	富士ヶ崎前
8位	加藤純道	湘南鯉会	89.0cm 10.24kg	勝山
9位	山田久男	友のよび会	88.5cm 7.76kg	沢辺ヶ崎
10位	吉益若二	相模鯉連合	87.2cm 7.9kg	八木崎
特別賞				
レディース&ジュニアの部				
優勝	塚越萌華	一般	81cm 6.7kg	八木



### 【大会入賞者一覧】

### 【遊漁券】

入賞者の各ポイントを左ページの赤丸で示した。(表彰式の掲示板の地名からポイントを落としているので実際に釣れたポイントとは少し外れているかもしれないが、) これを見る限り、大物は出っ張り狙いというのが共通点に思える。吐き出しもこの時期は水は流れてなく上流から吐き出された土砂・小石が岸から張り出してちょうど出っ張りのような形状を作っている。聞いた話だが、土砂が岸から押し出されているので底に覆いかぶさるように張り出しているため底藻も少ないそうである。これはコイにとってエサを見つけやすいことを意味するのではないか。またワンドの奥まった狭い水域で頻りにバスマンのキャストによるプレッシャーがあるようなところも大物にとっては危険に感じるのかもしれない。広く開けた水域にある出っ張りバスマンのあまり来ないような措置が出来るポイントが有効ではないかと感じた。さらに第25回大会(H24.6.8)の入賞ポイントを黄丸で示してみた。10月のポイントと同じポイントもあるが全く別のポイントもある。共通して言えることは、やはり出っ張りがポイントであるということである。